

第 83 回 ISO/TMB (技術管理評議会) 結果報告

經濟産業省 国際標準課

基準認証専門官

猿橋 淳子

令和 4 年 4 月 1 9 日

今回のTMBに関して

- 1 皆様におかれましては、いつも標準化活動にご協力いただきありがとうございます。
- 1 今回のTMBも、ISO会長会議の指示に従い、WEBで開催されました。
- 1 ハイブリッド会議の開催は自由になり、完全対面は申請を受け付けることが会長委員会で決定しております。
- 1 今回、SMB/TMB合同で作成した会議開催のガイダンスをご活用いただき、引き続き安心・安全な状態での規格開発にご対応いただけるようお願い申し上げます。
- 1 なお、遠隔会議が推奨されておりますが、時差の問題に関してはなくなることがありません。もし、何か困難な事象等が発生しましたら、ご連絡いただければ幸いです。

本資料の決議は簡易版ですので、正式なものは英語版でご確認ください。

1. 任務

I ISO規格作成に関する管理事務的事項

ü TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、
ISO/IEC専門業務指針の改訂等

I ISO規格作成に関する戦略的事項

ü 規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの
審議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（2）

2. メンバー（出席者）

- I TMB議長: Ms. Sauw Kook Choy（シンガポール）
- I TMBメンバー（15名）: Mr. Steven Cornish（米）, Ms. Amanda Richardson（英）, Ms. Petra Scharf（独）, Mr. Franck Lebeugle（仏）, Ms. Atsuko Saruhashi（日）, Ms. Karen Batt（豪）, Mr. Anton Shalaev（露）, Mr. Marcel Knecht（スイス）, Ms. Merete Holmen Murvold（ノルウェー）, Mr. Nelson Al Assal Filho（伯）, Dr. Mkabi Walcott（加）, Mr. Roy Chowdhury（印）, Mr. Cristian Vazquez（亜）, Mr. Hussalmizzar Hussain（馬）, Ms Yubing Li（中）
- I ISO中央事務局: Mr. Marco Rossi（新部門長）, Mr. Antoine Morin TMB事務局局長代理、ほか数名
- I オブザーバー: Mr. Ralph Sporer SMB議長（IEC副会長）, Mr. Gilles Thonet SMB事務局局長兼次長, CS担当

【決議 14/2022】開発プロセスの改善－委員会戦略管理プロジェクトの提案

<背景>

過去に設置されたTFにおいて、プロジェクトマネジメントの改善が議論され、結果、規格開発期間の短縮につながっている。今回はそれらを踏まえ、更に効果的に規格開発を行うため、開発プロセスの見直しを議論することが提案されている。

<審議内容>

- l Strategic Planning TFを設置し、TMB以外からの参加者とともに議論すべき。
- l SBP(Strategic Business Plan)を見直すための方法を議論。SBPを完成したTCSCからも参加をさせるべき。
- l NPへの記載方法も検討すべき。

<結果> 決議番号：14/2022

- l TFの設置を承認し、関連する計画や研修案を検討し、TMBに勧告する。
- l ISO2030戦略で定義された標準化ロードマップを支持するようなSBP (Strategic Business Plan) やガイダンス文書を作成すること。
- l メンバー： SCC、DIN、AFNOR、SA、ANSI、BSI、SAC + 関連TCSC

【決議 15/2022】ジェンダー対応規格に関する合同戦略諮問グループ（JSAG）の任務拡大

<背景>

2020年に設置されたジェンダーの合同戦略諮問グループの最終報告が提出された。

<審議内容>

- 1 報告書は了解されたものの、一部メンバーから国内での意見聴取中に、特に広報・普及においてネガティブな反応が見受けられた旨の報告があり、まずは普及活動に注意すべきではないかとなった。
- 1 一方、TMBに対して推奨された事象のうち、ジェンダーフォーカルポイントなどに関しては、MB/NCに役割との重複などがあるため、更に具体化させるべきなど見直しが求められた。
- 1 今後は男女ではなく、もう少し対象を広げるべき。

<結果>決議番号 15/2022

- 1 ジェンダーフォーカルポイントの役割の明確化と広報
- 1 JSAGの任期を延長し、更に活動することを決議。（広報や研修）

【決議 16/2022】JDMTレビュープロセスに関する ISO/IEC合同TFの最終報告及び推奨事項

<背景>

2021年3月TMB会合において、合同専門業務用指針（Directives）に関して、合同で見直すためのTFの設置が決定した。

年に一度の対面会議しか開催されないJDMTにおいて、簡単に解決できることでも12月の合同対面会議での議論を待たねばならないことによる非効率さを軽減し、合同でのToRを開発することにした。

日本からは、IEC/SMB委員（SONY）江崎様、TMB委員 猿橋が参加。

<審議内容> SMB/TMBのメンバーが参加したため、批判的な指摘はなかった。

<結果> 決議番号：16/2022

- l JDMT委任事項、メンバーの決定
- l 通年を通して変更申請を受け付け、年1の対面、年2のリモートのどの会議で扱うか調整の上、Directivesへの反映が検討される。
- l Directivesの変更要請書書式決定、本レポートを公開し、理解へつなげる。
- l JTFの推奨事項を承認し、JTFの廃止を決議。

【決議 17/2022】スマートシティに関するISO/IEC/ITU 合同タスクフォース（更新）

<背景>

- 1 2018年にJ-SCTF（合同スマートシティタスクフォース）として改組された3組織によるスマートシティ規格開発の協力枠組み。
- 1 重複事項を最低限にするなどの目的を果たすために協力し、2022年2月に報告書を提出する予定であったが、コロナ禍のため、予定した会議開始が遅れるなどの問題があり、今回の報告は10月までの延期が求められている。
- 1 更に、10月以降の活動に関しても延長する計画がある。

<審議内容>

- 1 特になし

<結果> 決議番号：82/2021

- 1 活動の延長を承認し、10月までに報告することが求められている。

なお、SPCGに対しては3組織で発行できる文書について質問あり。

【決議 18/2021】TC170外科用器具におけるNPを受け入れるために必要なPメンバーの最小数の例外

<背景>

- 1 TC 170（外科用器具）から、NP投票時のプロジェクト開発への積極的な参加数の条件を3カ国にするよう申請された。
- 1 決議延期を希望した国からは、10カ国もP-memberがいることや製造業者が世界中に存在すること、使用者の参加がない旨が指摘されている。

<審議内容>

- 1 全ての規格に例外を付与するのではなく、まずは必要な規格のみとし、更にTC内で広報し、参加者が増えるような活動をすべき。
- 1 一年後に、TC 170から報告させるべき。

<結果>決議番号 18/2022

- 1 7551シリーズと6335シリーズは例外を認め、必要に応じて申請をすることとしTC170全てを例外扱いにはしないこととする。
- 1 参加者が増えるような広報活動を行い、一年後にTC 170から報告すること。

【決議 19/2022】品質管理システムー警察組織における ISO 9001の適用のためのガイドラインに関する新規提 案のTC 176への割り当てについて

<背景>

IWA 12:2013 (Guidelines on the application of ISO 9001:2008 in policing organizations) で開発された文書を基にした規格開発提案があり、割り当てをTC176にするものでよいかという案件。

将来、TC 176がセクターのない案件全て対応することになるのではないか、という問題が提起され決議延期。

<審議内容>

- Ⅰ TC 292にも専門性があるのではないか、という意見もあったが、TC 292からは反対。
- Ⅰ TC176のスコープではTMBやTCのないセクターからの依頼でも、当該セクター由来の品質管理規格を開発するとなっているため、TC 176に割り当てを決定。

<結果> 決議番号：19/2022

- Ⅰ TC 176に割り当て、必要な専門家を招聘し規格開発を行うこと。
- Ⅰ また、適切な規格類を決定し6月に報告すること。

【決議 20/2022】TC 258の議長の任命

<背景>

TC 258（プロジェクト、プログラム、ポートフォリオマネジメント）の議長の任命投票において、決議延期の依頼が数力国からあったもの。

議長指名プロセスの透明性が確保されておらず、運営に疑義があるとのこと。

<審議内容>

- 1 TMB事務局調べによれば、議長指名プロセスはルールに則って行われており、問題はないと考えられているが、委員間での緊張関係に依るところが大きい。
- 1 今回も議長個人を攻撃するようなものではなく、本委員会での規格開発が適切に行われるようにするための議論であることが何度も確認された。
- 1 短期の承認という提案もあったが、個人攻撃になりかねないため却下された。

<結果> 決議番号：20/2022

- 1 議長を承認し、次期議長として協力的な関係を作るよう活動し、9月に結果を報告するよう求めた。
- 1 進捗状況は、モニターすることも求められている。

【決議 21/2022】TC 37 ISO 23395-1における 「YOU」を利用する例外要請

<背景>

- 1 TC 37（言語及び専門用語）で開発中の23395-1（平易語：第一部 原則とガイドライン）において、「YOU」の利用を例外的に認める申請が到達。
- 1 TMB事務局としては、高度に専門的な技術文書としてのISOの規格に利用するのは適当ではないとして反論している。

<審議内容>

- 1 「YOU」は翻訳した際に、複数の言語で統一用語にすることができないため、国家規格採用の観点からも反対。
- 1 一方、マーケットニーズがあるのであれば、きちんと分析し、将来なんらかの方法（例えばSMART規格）で翻訳などの問題も解決できるようであれば対応すべき。

<結果>決議番号 21/2022

- 1 反対の理由に留意した上で、例外利用は認めない。

【決議 22/2022】JTC 1における新SC ブレインコン ピューターインターフェースの設置について

<背景>

- 1 2021年11月のJTC 1総会中のWSで説明し、JTC 1総会決議で設置が決定したブレインコンピューターインターフェースのSC設置について、決議が延期。
- 1 WS中の質疑応答の不備や緊急性の有無、SMB承認済みなどが問題視された。

<審議内容>

- 1 WS開催の手段・準備に不備はあったものの、両事務局と調製していたため、WSとしては成立しており、質疑応答も対応済みなど。
- 1 スcopeが不明瞭なため、JTC 1が本件を行うのに適切な委員会かどうか不明。
- 1 一件しか新規提案がないのであれば、SC設置は時期尚早。

<結果> 決議番号 21/2022

- 1 JTC 1、SMB、TMBからのコメントに留意し、暫定的にSCの設置を承認し、国際幹事を中国に割り当てた。
- 1 規格開発は、TMBやSMBに対して業務範囲を明確した後であること。

【決議 23/2022】熱供給ネットワークに関する新しいTCの設置について

<背景>

- 1 熱供給ネットワークに関する新TC設置が中国から提案された。
- 1 関連するTCが多数あり、決議延期。

<審議内容>

- 1 地域による違いがありすぎるため、国際規格に不適切。
- 1 地域による違いには冷房も含むことが多いため、スコープは見直すべき。
- 1 提案者は、MB投票やTMB投票でのコメントを精査してほしい。

<結果> 決議番号 23/2022

- 1 設立は延期し、投票時のコメントに留意して、関連するTCSCに連絡をとり、既存のSC内で取り扱えないかなど適切なところを協議するように依頼。
- 1 その上で、新しい業務範囲などを見直し6月のTMBに再提出を求めた。

【決議 24/2022】 Directives Part1のISO Supplement への変更に関する推奨事項の承認

<背景>

- Ⅰ 毎年12月に行われるDirectivesのメンテナンスチーム(DMT Directives Maintenance Team)から提案されたDirectives Part1のISO補足指針の変更への推奨事項
- Ⅰ 日本からは、日本規格協会 濱岡様が参加

<審議内容>

- Ⅰ TMB委員への事前調整により、特になし。

<結果> 決議番号 24/2022

詳細は別途行う説明参照

【決議 25/2022】決議24/2022のDMT推奨事項に関連しないアクション

<背景>

- I 毎年12月に行われるDMTで議論された内容のうちのアクション事項

<審議内容>

- I TMB委員への事前調整により、特になし。

<結果> 決議番号 25/2022

詳細は別途行う説明参照

【決議 26/2022】 Directives Part1への変更に関する 推奨事項の承認

<背景>

- I 毎年12月に行われるISO/IEC合同のDirectivesのメンテナンスチーム（JDMT Joint Directives Maintenance Team）から提案されたPart1への変更への推奨事項
- I 日本からは、IEC/SMB委員（SONY）江崎様、日本規格協会 濱岡様が参加

<審議内容>

- I TMB委員への事前調整により、特になし。

<結果> 決議番号 24/2022

詳細は別途行う説明参照

【決議 27/2022】決議26 /2022のJDMT推奨事項に関連しないアクション

<背景>

- 毎年12月に行われるISO/IEC合同のDirectivesのメンテナンスチーム（JDMT Joint Directives Maintenance Team）から提案されたPart1への変更への推奨事項

<審議内容>

- TMB委員への事前調整により、特になし。

<結果> 決議番号 24/2022

詳細は別途行う説明参照

【決議 28/2022】CD投票 コメントのみ対応について

<背景>

- ISOのCD投票に関するITツールの見直しが、JDMTより提案された。
- 原則、IECとJTC 1とそろえる方針であることを踏まえた議論。

<審議内容>

- Directivesの記載は統一であるものの、ISOの投票ツールにおいてCDステージは強制的に投票する仕組み。IEC、JTC1と運用が異なっており、統一するべき。
- 一方、DISへ進んでいいのかという確認ができないため、投票は残すべき。
- コメントを求めているのか、DISへ進めることを承認するのか、CD投票の問いがわかりにくい。修正が必要。
- IECは、DISへ進めるかどうかの承認はコンセンサスで決定。

<結果> 決議番号 28/2022

- CDステージで求められるものはコメントのみとし、投票ツールを修正。
- なお、DISへの進めるかどうかの確認が必要な際は、CIBで対応できるよう準備。

【決議 29/2022】量子技術について

<背景>

- 1 IEC/SMBにおいて量子技術の議論を行うSEG (Standard Evaluation Group) が設立されたことに対し、単独ではなく最初からISOと共同で議論すべきであるという意見に基づき、議論。

<審議内容>

- 1 量子技術のようなIT分野 (JTC 1に関連) をIECのみではなく、最初から合同で議論すべき。
- 1 IEC/SEGは、参加者を限定しておらず、ISO、TMBと幅広い参加が可能。ISOにSEGがないので合同開催が可能か不明。(SAGとSEGの合同も可能では?)
- 1 参加するだけでは、合同決議にならない。ISO/SAGは幅広い参加が不可では? の指摘あり (SAG Farmingは広げている) 。

<結果>決議番号 29/2022

- 1 IEC/MSB (Market Strategy Board)の勧告である「他のSDOと積極的に調整し、てコラボし・・・」を踏まえること。
- 1 IEC/SEG 14とISOの組織が、共同コンビーナで合同で議論できるよう、SMBに検討を依頼。

**参考
討議事項
(決議なし)**

【6.3.1】TMB事前コンサルテーションプロセス

<背景>

最近の新TC提案書（TSP）や新PC提案書（Form4）の質の低下による利害関係者への理解が進まないという懸念が、2021年9月のTMBで表明された。そのため、BSIよりTMB内に対する新プロセスが提案された。

本来、既存のTCで扱えるものが新しいTC/PC設置となり、TCの激増を招いており、利害関係者への理解、リソースの観点からもプロセスの再考が必要。

<審議内容>

- Ⅰ 新しいアイデアのTSPなどを否定するのではなく、提案書の質の向上、利害関係者への理解の促進を行う。
- Ⅰ TMBとして事前に検討を行い、最適なTCの確認や提案書へのコメントを行う。
- Ⅰ 既存のTCに引き受けることを勧告するのみならず、引き受けのためにスコープ拡大を検討することも指示する。

<結果>

- Ⅰ TMB内部のプロセスのため、TMBの手続き書に記載し、試行的に開始。
- Ⅰ 既に3件ほどプロセスで検討中。

【議題外】議長からの報告

<背景>

議長が行う前回以降の理事会等での議論からTMBに関連する事項の報告。

<報告内容>

I 持続可能なプログラム

- I 中央事務局に対応部門を設置。特に気候変動（ロンドン宣言など）と Diversity and Inclusionで活動する。
- I 気候変動では、規格開発、戦略パートナーシップ、広報（認知とブランド）に対応する。規格開発では規格開発状況を確認し分析し、検討。

I 標準化ロードマップイニシアティブ

- I DINのアプローチを活用。規格がどのように市場を支援できるかをロードマップ化。規格開発プロセスや最適な規格開発のプロジェクトを含む。

I 年間を通じたリスクの確認（TMB関連：市場ニーズとの不一致、ブランドへの悪評）

I 関連文書の見直しを理事会下でTMBと協力して実施

- I Code of ethicsと、TC会合へのスポンサーシップガイダンス

【ご参考】ウクライナ・ロシアについて

<事務局長からの連絡>

ロシア主導で行われる全会議は通知があるまで延期。ただし、投票用文書の発行、ISO/CSへの原案提出、CIBに関する決議など、その他の委員会活動はすべて許可。

<ロシア主導が以下の場合>

I CM（委員会マネジャー）

- 更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
- ロシアの主導ではないIWG、AGは通常通り会議を開催し、活動が可能。

I 議長

1. CMもロシア：更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
2. CMはロシア以外：参加者は会議のセッション議長を選出可
3. オプション2.が不可能な場合：ISO TPMによる会議の進行を検討。

I コンビーナ

1. 会議は延期。但し、他のすべての活動は許可。
2. プロジェクト期限厳守のために会議開催が不可欠と判断された場合：
 - § 親委員会（TC/SC）議長（ロシア以外）が対応 または、
 - § WGの専門家が、会議のセッションコンビーナを指名可能。
3. オプション2.が不可能な場合、ISO TPMによる会議の進行を検討。

【ご参考】 表彰制度の活用

- | ローレンス D アイカー賞
- | 次世代賞
- | ISO優秀賞
- | 産業標準化事業表彰

参考

<https://www.iso.org/iso-awards.html>

- | ローレンス D アイカー賞： 優秀なTCやSCの活動に対して、年に1つの委員会に対して授与される賞。自薦他薦問わず、4月末頃までに申請。受賞委員会は、総会で表彰される。
- | 次世代賞： 18～35歳までの標準化機関の職員に対して、持続可能性などを踏まえた標準化の経験に基づいて申請。毎年一人が受賞し、6ヶ月のISO中央事務局への出向の機会が与えられる。
- | ISO優秀賞： 前年に出版された規格に携わった専門家個人に与えられる賞。委員会の国際幹事国を通じて、TPM（ISO中央事務局）に提出する。人数などの制限無し。
- | 産業標準化事業表彰 候補者募集 募集期間：4月11日～5月11日12時
<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/keihatsu/hyosho/R04hyosho.html>

ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html>

日本産業標準調査会ホームページ

<https://www.jisc.go.jp/>